



平成 24 年度・25 年度 市民福祉委員会の提言 ～ これからの「支えあい」の構築について ～



＜先進地などへの視察の概要＞

松山市民福祉委員会では平成 24 年度・25 年度において、「これからの『支えあい』の構築」について調査・研究を行いました。テーマおよび内容はよしとみの提案によるもので、本市の現状と課題の分析、先進地視察、対応策の立案、活発な議論と意見集約、そして、提言書の取りまとめまで、よしとみは一貫して積極的に関与し、平成 25 年 12 月定例会ではよしとみが代行で委員長報告を行いました。

1. テーマ選定の経緯

市民一人ひとりが地域社会の一員として安心して充実した生活を送るために、そして、かけがえのない社会保障制度を維持し次代に残すために、自助・共助・公助を最適に組み合わせた施策の展開が必要であり、地域に根ざして助け合う地域社会を構築する必要があります。

よって、委員会として、閉会中のテーマを「これからの『支えあい』の構築について」と決定し、調査研究を行いました。

2. 市への主な提言事項

N P O と の 協 働 , 育 成 ・ 支 援

- 既存の行政と NPO の協働ガイドブックをさらに充実させ、市職員への啓発に努めること。
- 補助金に頼らない NPO の育成を促進するため、寄付集め、資金調達の方法等の調査研究を行うことにより、NPO の自立性を高めること。
- 担い手の育成として市民に対して、「一歩踏み出す」「現場に臨む」ための一定の見識や技能を満たす体系的な講座等を開催し、新たな担い手の発掘やスタッフのレベルアップを図ること。
- 複数の NPO による共同事務所づくりについて調査研究を行うこと。
- 周知・啓発の強化として NPO の活動内容、NPO 法改正による認定要件の緩和や、認定 NPO 法人に寄付した場合の優遇税制の拡充など、近年の法整備について市民に広く周知啓発を行い、NPO の認知度向上を図ること。



社会的企業(ソーシャルビジネス)との協働,育成・支援

- 本市におけるソーシャルビジネスの実態を把握し理解を深め、行政との協働のあり方を調査研究すること。
- ソーシャルビジネスの多様な可能性を理解し、部署横断的な連携による推進を検討。

地域団体との協働,育成・支援

- 人口、高齢化率、要介護者数など有効な地域情報を公開し、地域に必要な支えあい活動の契機とすること。
- 社会福祉協議会と地域団体の有効な連携の在り方を検討し、地域福祉を推進すること。
- 各団体を若い世代へ引き継ぐため、若者が参画しやすい仕組みづくりを調査研究すること。
- 地域で支援が必要な方の個人情報を活用できる仕組みづくりを推進すること。

平成 25 年 1 月 22 日 様々な分野の市民活動団体や、これから活動しようと考えている人たちの拠点施設。多様な市民活動の活性化のために支援を行い、団体と行政・企業・学校・地域等が協働する活力ある地域社会の実現を目的としています。
平成 25 年 2 月 5 日 個人情報の活用には慎重な上にも慎重を期さなければならないのが行政。その点には十分に配慮しつつ、条例を設け、名簿(情報)を市民・団体と共有し、見守りのすそ野を広げている取り組み。
平成 25 年 2 月 6 日 「職員のための 協働ハンドブック」<入門編>は、体系立てられた、非常に読みやすいものでした。また、担い手育成の八王子「志民塾」には、①コミュニティビジネスコース、②地域活動実践コース、③起業コースの 3 コースがあり、とても人気があるようでした。
平成 25 年 7 月 31 日 ①地域福祉実現のための取り組みについて 市・市社会福祉協議会・地区社協の 3 層構造で地域福祉を推進。自治会連合会や民生委員の活動エリアと地区社協 47 地区のエリアを整合、地域福祉活動の基礎単位を設定していました。各地区には地域福祉コーディネーターを順次配置。 ②障害者の権利の擁護等に関する取り組みについて 市長公約で【ノーマライゼーション条例】を制定(平成 23 年 3 月 4 日)。国に先駆けて、国連障がい者権利条約に基づく条例を制定。政令指定都市で初めて。
平成 25 年 8 月 1 日 「【まちづくり支援システム】を活用したまちづくりの推進について」 「【ちば市民活力創造プラザ】について」 「【まちづくり支援システム】を活用したまちづくりの推進について」 ①ウェブサイト「若葉区から情報発信！」 地域情報ポータルサイト「まいぶれ」を活用して情報発信。地域の皆さんとの協働により収集した地域情報や、町丁ごとに推計した将来人口・高齢化率などの情報を集約して発信。また、支えあい活動の好事例などを紹介。 ②【まちづくり支援システム】の活用 町内自治会等に出向き、本システムを活用して説明会を開催するなど、啓発活動を実施。地域の実態に即した支えあいの活動が芽生えているようでした。
「【ちば市民活力創造プラザ】について」 「何かしたいけど、何ができるかわからない…」そんな時に、気軽に立ち寄れる雰囲気。千葉市民活動センターと千葉市ボランティアズカフェが統合。セルフ無料のカフェ。ボラ情報を一元化し、情報管理・提供。特定のジャンルを持たないために間口が広いのが特徴。

ボランティアとの協働,育成・支援

- ボランティアセンターの機能強化として、市民が親しみやすい窓口を整備するとともに、各種団体に対しての活動支援や情報提供、他団体とのコーディネートなど様々な面からの支援を強化すること。
- 市民活動を総合的に支援するため、NPO サポートセンターとボランティアセンターとの連携の仕方を検討すること。
- 学生ボランティアを活用するため、大学等とボランティアセンターとの連携を強化し、学生のボランティア活動への参加を促すこと。

よしとみは「支え合う社会」の構築をめざします。皆様のご意見・ご要望をお待ちしております。